

平成20年11月29日(土)～30日(日)

日本語学会第137回大会

〔会場〕金沢大学角間キャンパス

大会実行委員長 **新田哲夫**

(金沢大学教授)



11月29日(土)、30日(日)の両日、日本語学会第137回大会を金沢大学角間キャンパス北地区で開催します。日本語学会は70年の歴史をもち、言語学関係では最大規模の学会です。国内外から、言語関係の研究者が集まり、多種多様な分野から、新しい研究が披露され、討論が行われます。

大会初日の29日は、会場建物内の8つの部屋で、43件の口頭発表と5件のワークショップが開かれます。

2日目の30日は、公開講演と公開シンポジウムが開かれ

ます。講演は、「朝鮮漢字音アクセントの歴史的発展と類推変化」、「フィリピン言語学の現在」と題して、新進気鋭のお2人の研究者がお話します。また、シンポジウムは「言語変化のモデル」というテーマで、3人の講演者がそれぞれの立場で、最新の研究を提示し、ディスカッションを行います。この講演とシンポジウムは会員以外の方でも参加できます。2日目は他にも、5件のポスター発表と危機言語小委員会からの特別展示もあります。

金沢で開催される言語学会大会は1985年以来、実に23年ぶりとなります。この間、香林坊再開発、金沢大移転、金沢駅周辺の再開発が行われ、市街地は大きく様変わりしました。お越しいただく言語研究者には、新しい魅力と歴史情緒の溶け込んだ金沢を楽しんでいただけるのではないかと思います。